

事務事業名		椿利活用推進事業		☐ 実施計画登載事業		☐ 合併建設計画登載事業				
政策体系	政策名	015 豊かな市民生活を実現する産業の振興		事業期間		予算科目				
	施策名	210 地域の特性を生かした農林業の振興				会計	款	項	目	事業
	基本事業名	011 農業経営の安定化								
根拠法令				☐ 単年度のみ ☒ 単年度繰返 (開始 27 年度～) ☐ 期間限定複数年度 【計画期間】 27 年度～ 29 年度 ※全体計画欄の総投入量を記入		01 06 01 03 24				
所属	部課名	農林水産部農林課								
	課長名	田中 聖一								
	係 名	農政係	電話							
	担当者	新沼 秀樹	内線	7121						
事務事業の概要(具体的なやり方、手順、詳細。期間限定複数年度事業は全体像を記述)						全体計画(※期間限定複数年度のみ)				
市の花「椿」を生かしたまちづくりを進めるうへでは、関係団体の連携強化、椿を地域資源とする都市との交流推進、イベントの開催などが不可欠であり、これらの取組みを円滑に進め、将来的に椿を通じて地域コミュニティの再構築や本市の知名度・地域ブランド力の向上に資することを目的とする。 【活動内容】 ○「椿」を活用した地域振興の取組み 「椿」を核として、行政機関や市内外の事業者及び地域住民等との連携体制を構築しながら、地域振興の取組みを推進。 ○「椿」に対する認知度向上とコミュニティ再構築 まちの「椿」の現状把握や植樹、搾油体験、椿に関する活動を行う団体・個人を集めたイベント等を企画・開催し、本市の地域資源である「椿」に対する市民の認知度や愛着感を高めるとともに「椿」を軸とするコミュニティの再構築を実施。						総投入量 (千円)	事業費	財源内訳	国庫支出金	
									都道府県支出金	
									地方債	
									その他	
									一般財源	
									事業費計 (A)	0
人件費	正規職員従事人数									
	延べ業務時間									
	人件費計 (B)	0								
	トータルコスト(A)+(B)	0								

1 現状把握の部(DO)										
(1) 事務事業の目的と指標										
① 手段(主な活動)				⑤ 活動指標(事務事業の活動量を表す指標)						
前年度実績(前年度に行った主な活動)				名称		単位				
・椿利活用推進員の配置				ア	椿の植栽面積	アール				
				イ						
				ウ						
今年度計画(今年度に計画している主な活動)				⑥ 対象指標(対象の大きさを表す指標)						
・遊休農地を中心とした椿苗木の植栽 ・椿商品開発支援 ・椿学習プログラムを活用した市内中学校での学習支援				名称		単位				
				カ	椿の植栽	本				
				キ						
② 対象(誰、何を対象にしているのか) * 人や自然資源等				⑦ 成果指標(対象における意図の達成度を表す指標)						
・市内の椿				名称		単位				
				ク						
				サ	椿の実の収穫量	kg				
③ 意図(この事業によって、対象をどう変えるのか)				シ						
・椿実・椿葉・椿花の収穫量を増やす。				ス						
④ 結果(基本事業の意図:上位の基本事業にどのように貢献するのか)										
・椿の利活用による商品開発により、将来の産業化に弾みがつく。										
(2) 総事業費・指標等の推移										
			年度	23年度(実績)	24年度(実績)	25年度(実績)	26年度(実績)	27年度(実績)	28年度(目標)	
投入量	事業費	国庫支出金	千 円							
		都道府県支出金	千 円							
		地方債	千 円							
		その他	千 円							
		一般財源	千 円					8,064	10,746	
		事業費計 (A)	千 円					8,064	10,746	
	人件費	正規職員従事人数	人						2	2
		延べ業務時間	時 間						150	150
		人件費計 (B)	千 円						600	600
		トータルコスト(A)+(B)	千 円						8,664	11,346
⑤活動指標		ア	アール					82	82	
		イ								
		ウ								
⑥対象指標		カ	本					1200	1200	
		キ								
		ク								
⑦成果指標		サ	kg					0	0	
		シ								
		ス								

事務事業ID	1690	事務事業名	椿利活用推進事業
--------	------	-------	----------

(3) 事務事業の環境変化・住民意見等			
① この事務事業を開始したきっかけは何か？いつ頃どんな経緯で開始されたのか？			
震災後、復興支援として市と閑資生堂は椿の産業化に向けて、「椿の里プロジェクト」を実施してきたが、今後の展開を検討する中で、事業実施体制の確立が課題となっていた。 課題解決のため、総務省の復興支援員制度を活用して地域の事業推進リーダーを配置することとした。			
② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)は、開始時期あるいは前期基本計画策定時と比べてどう変わったのか？			
・平成27年度に椿利活用推進員1名を委嘱し、椿の資源量調査、マッピング作業を行った。			
③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか？			
・椿を観光資源のほか、産業化に向けた利活用について市の取り組みが求められている。			

2 評価の部(SEE) * 原則は事後評価、ただし複数年度事業は途中評価			
目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 結びついている ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	この事務事業の目的は当市の政策体系に結びつくか？意図することが結果に結びついているか？	当市では、「椿の里」をキャッチフレーズにしたまちづくりを推進しており、椿という資源を活用した観光振興及び産業振興に結びつく。	
	② 公共関与の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 妥当である ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	なぜこの事業を当市が行わなければならないのか？税金を投入して、達成する目的か？	当市では、「椿の里」をキャッチフレーズにしたまちづくりを推進しており、椿という資源を活用した観光振興及び産業振興を図るうえで市が関与する妥当性がある。	
有効性 評価	③ 対象・意図の妥当性	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 適切である ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	本事業は、椿の利活用による商品開発、産業化であり、対象・意図ともに適切である。	
	④ 成果の向上余地	☐ 向上余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 向上余地がない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	成果を向上させる余地はあるか？成果の現状水準とあるべき水準との差異はないか？何が原因で成果向上が期待できないのか？	遊休農地を中心に椿苗木の植栽に取り組んでいる。	
効率性 評価	⑤ 廃止・休止の成果への影響	☐ 影響無 ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 影響有 ⇒【その内容】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	事務事業を廃止・休止した場合の影響の有無とその内容は？	・遊休農地を中心とした椿苗木の植栽 ・椿商品開発支援 ・椿学習プログラムを活用した市内中学校での学習支援の活動に支障をきたす。	
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性	☐ 他に手段がある ⇒ (具体的な手段, 事務事業) ☐ 統廃合・連携ができる ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	目的を達成するには、この事務事業以外他に方法はないか？類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	他に類似事業がない。	
公平性 評価	⑦ 事業費の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	成果を下げずに事業費を削減できないか？(仕様や工法の適正化、住民の協力など)	委託料については、毎月、実績に基づいた精算手続きを行っており、事業費を削減できる余地はない。	
	⑧ 人件費(延べ業務時間)の削減余地	☐ 削減余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	やり方を工夫して延べ業務時間を削減できないか？成果を下げずにより正職員以外の職員や委託でできないか？(アウトソーシングなど)	業務のほとんどは、委嘱した椿利活用推進員が行っており、職員が行う事務は限定されていることから、人件費を削減できる余地はない。	
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地	☐ 見直し余地がある ⇒【理由】⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映 ☒ 公平・公正である ⇒【理由】⇒	⇒ 3 改革・改善方向の部(3枚目シート)に反映
	事業の内容が一部の受益者に偏っていて不公平ではないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	本事業による受益者は市民であり、公平・公正である。	

事務事業ID	1690	事務事業名	椿利活用推進事業
--------	------	-------	----------

3 評価結果の総括と今後の方向性(次年度計画と予算への反映)(PLAN)

(1) 1次評価者としての評価結果 (2枚目と整合を図ること) <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	(2) 全体総括(振り返り、反省点) 市内の愛好者を中心に様々な椿関連商品を開発しているが、ヒット商品が不在である。									
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(3) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) 愛好者の趣味的な商品開発から、企業との共同開発も必要ではないか。		(4) 改革・改善による期待成果 左記(3)の改革改善案を実施した場合に期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			
(5) 改革改善を実現する上で解決すべき課題とその解決策又は特記事項等 ・椿の植栽を行っているが、実の収穫まで7～8年を要するため、長期的な視点での事業構想が必要である。 ・外部の力を活用しながら、「大船渡 椿の里」ブランドの向上と商品開発が必要である。																							

(職 名) ※原則として施策の主管課長 (氏 名)

4 事務事業の2次評価結果

2次評価者

農林課長

田中聖一

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ①記述水準(1次評価の記述内容を読んだ段階で選択) ☐ 記述不足でわかりにくい ☐ 一部記述不足のところがある ☒ 記述は十分なされている ②評価の客観性水準(2次評価を行った後に総合的に判断して選択) ☐ 客観性を欠いており評価が偏っている(事務事業の問題点、課題が認識されてない) ☐ 一部に客観性を欠いたところがある ☒ 客観的な評価となっている(事務事業の問題点、課題が認識されている)		(3) 評価結果の根拠と理由 適切な事務執行がなされている。																					
(2) 2次評価者としての評価結果 <table border="1"> <tr> <td>① 目的妥当性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>② 有効性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>③ 効率性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> <tr> <td>④ 公平性</td> <td>☒ 適切</td> <td>☐ 見直し余地あり</td> </tr> </table>		① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり	④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり										
① 目的妥当性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
② 有効性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
③ 効率性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
④ 公平性	☒ 適切	☐ 見直し余地あり																					
(4) 次年度の方向性(改革改善案)・・・複数選択可 (ただし、廃止・休止・現状維持は他と重複不可) ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的再設定 ☐ 事業統合・連携 ☒ 現状維持 事業のやり方改善 (☐ 有効性改善 ☐ 効率性改善 ☐ 公平性改善) (上記方向性に対する具体的な内容) ・市として椿油の産地化をめざした計画の立案とこれにそった計画的な椿の植栽が必要である。		(5) 改革・改善による期待成果 左記(4)により期待できる成果について該当欄に「●」を記入する。また、1次評価と内容が異なる場合には、1次評価の結果も「○」で記入する。 (廃止・休止の場合は記入不要) <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>●</td> <td>×</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td>×</td> <td>×</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		●	×	低下		×	×
		コスト																					
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		●	×																			
	低下		×	×																			

5 最終評価結果

(1) 行政経営推進会議等での指摘事項
